

東日本大震災を振り返って



宮城県石巻商業高等学校教諭
宇都宮 康弘
USHUNOMIYA Yasuhiro

プロフィール

平成 8年 3月 宮城県石巻商業高等学校経理科卒業
平成12年 3月 千葉商科大学商経学部商学科卒業
平成12年 4月 仙台市立仙台女子商業高等学校非常勤講師
平成15年 4月 宮城県田尻高等学校常勤講師
平成16年 4月 宮城県田尻高等学校教諭
平成20年 4月 宮城県石巻商業高等学校教諭



校舎南側の北上川をさかのぼる津波

…はじめに…

本校は、「独立自尊」を校是とする、百年の歴史と伝統を持つ商業高校です。平成18年度から男女共学化を機に、従来の3つの小学科を一つの学科に統合して「総合ビジネス科」に学科改編。また、校舎大規模改修工事の完成により施設設備を一新。さらに、平成19年度からは石巻専修大学との高大接続研究事業を実施し、さらなる教育環境の充実を図っています。今年の11月11日には、創立百周年記念式典を開催しました。

… 1 東日本大震災直後の状況 …

2011年3月11日午後2時46分に地震が発生し、約6分間縦・横揺れの激震が走りました。当日は、入試関連の業務中で、生徒は家庭学習日でした。それでも、学校には約100人前後の生徒が部活動や補習に来ていました。



地震が起こり、学校の

地震直後の職員室

校舎内が激しい揺れで職員室内・図書館内など足の踏み場もない状況になり、また、校庭は、液状化現象が起こり校庭への避難は無理なため校舎前のアスファルトの駐車場に避難しました。天候は雪が降っており、駐車場に石油ストーブを設置し寒さをしのぎました。その後、大津波警報が鳴り、「かなり大きな津波が来る、高台へ避難するように」との避難指示が出ました。避難していた駐車場から直ちに校舎内に避難しました。また、車のラジオや、携帯電話のテレビなどで10mを超える津波が押し寄せているという情報をこの時初めて耳にし、津波の第一波が石巻市を直撃、隣接する川にすごい勢いで津波が押し寄せました。その直後、今まで避難していた場所に1mの津波が襲い、石油ストーブとその場所に駐車してあった車が水没しました。そして、職員、生徒、生徒を迎えに来ていた保護者の方々も校舎3階へ避難しました。その時、校舎前の北上川をがれきと一緒に遡上する津波をみました。

学校は地震により、停電、断水となり、ライフラインがすべて止まりました。携帯電話も不通になり、外部からの情報が遮断されました。さらに、職員駐車場に置いていた車も、何回かの津波と、その日の満潮と

も加わり、職員の3分の2の車が水没しました。その水が校舎1階に入り普通教室・特別教室の一部が床上浸水しました。

震災後、職員で何とかこの事態に対処すべく、校舎内にある飲み物や、食べ物、毛布や布団などを一か所に集め、石油ストーブで、硬式野球部が持っていた白米を炊き、避難者の皆さんに配給しました。その日は非常に寒く、カーテンを毛布代わりにしたり、段ボールを敷布団代わりにしたりなどして寒さに耐えました。

次の日、被災を受けなかった職員の車で物資の調達(水、米)などを行いました。



液状化現象が起こった校庭

【… 2 避難所として …】

本校の北側の運動公園に自衛隊の基地が設置され、自衛隊のヘリで救助された女川町出島の方々約200人の方と、石巻市内の100人の方々が、着のみ着のまま本校に避難してきました。ここにきて、ようやく周辺の被害状況が分かりだし、石巻市内全地区が水没となり、支援物資が届けられずにいるなど、深刻な状況を初めて知るようになりました。

避難所としての機能が定着し、日本赤十字の医療団が定期的に訪問するようになりました。職員でローテーションを組み、当番で当直制度を作りました。石

巻市からも職員が派遣されました。そして、仮設トイレも設置され、衛生的な環境が徐々に出来ていきました。また、NPOの方々の支援で、朝・夕の炊き出しをしていただきました。暖かい食事が取れる喜びを噛みしめながら食べる事が出来ました。その後、全国各地から支援が届き始め、沢山の食料や、衣料品が届けられるようになりました。

【… 3 自宅の浸水 …】

津波発生4日後、初めて自宅に戻ることができました。私の住んでいた地区は、石巻港より3kmほどのところにありました。自宅に戻るまでの道では、多数の被災した車が道路を塞いでいました。沢山の人ががれきをかき分け家族の安否の確認に必死になって歩いていました。ようやく自宅につきましたが、自宅は、入り口すべてが壊れており、家の中には水産加工場の機材や冷凍された魚介類、網業者の数トンもする網が散乱しておりました。また、この地区一帯がまだ津波発生直後と変わらない状態であり、沢山の遺体が至る所にありました。まさに地獄絵図を見ているようでした。

両親の安否が確認できましたが、祖母が行方不明でした。デイスービスにいており、安否の確認がとれ



震災後の自宅前



自宅の浸水跡

ておりませんでした。遺体安置所に毎日行き、何百体もの遺体の確認をしてきました。1か月後、祖母の遺体を発見することができました。

【… 4 がれき問題が起きる …】

学校裏に市有地があり、震災のがれきの置場となりました。その影響で、悪臭や、粉じん、夏場になると、ハエの大量発生など様々な問題が起きました。その支援として、マスクや空気清浄器などが日本赤十字社をはじめとしていろいろなところから送



校舎裏のがれき

られてきました。この問題はテレビや新聞など全国で報道されました。今現在もがれき等が置かれたままになっております。

【… 5 世界各地からの応援 …】

各地から被災地支援として、本校に励ましの声や救済物資の提供などがありました。中でも、ノルウェー王国のエルケム社から太陽光発電装置を寄贈されました。また、全国商業高等学校協会主催の検定試験および認定試験の受験料を免除、沢山の全国の高等学校の皆さんに励ましの言葉や、義援金などいただきました。

【… 6 現在の町の状況 …】

震災から10か月が過ぎました。しかし、未だに震災当時のままの姿で残っている場所がいっぱいあります。石巻港は未だに満潮時には浸水している状況です。また、石巻市立女子商業高等学校は、津波の直撃を受け未だに津波が来た時間で学校の時計は止まっています。このような状況が未だに続いていることを沢山の

方々にわかっていただきたいと思います。

【… おわりに …】

今回の震災において、生と死とは紙一重であったことを改めて実感しました。ライフラインも止まり、食料もない中、生きていくためにはお互いを思いやり協力していく気持ちが一番大切なことだと実感しました。また、多くのボランティアの皆さんからのご支援、様々な方々の支えがあって今を迎えることができました。そして、この経験を忘れることなく、後世へしっかりと伝えられるようにしていきたいと思っております。また、町の復興を願う子供たちのためにも、今後、商業高校としての使命を自覚し、復興に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。末筆ではございますが、このような機会を与えてくださった千葉商科大学の皆様に感謝申し上げます。